The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2016年度　意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	塚田, 章
Citation	デザイン理論. 2017, 70, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/65044
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2016年度　意匠学会論文賞選考結果報告

2016年度学会賞選考委員会
委員長　塚　田　　章

受賞論文

平芳　裕子氏

「パターンによる流行受容 ── 初期『ハーパース・バザー』の重要性」

受賞理由

受賞論文「パターンによる流行受容 ── 初期『ハーパース・バザー』の重要性」は，アメリカの代表的なファッション誌『ハーパース・バザー』の初期に刊行されたものに着目してファッション誌におけるパターンの役割を論じている。女性誌からファッション誌へと移行する19世紀末から20世紀初頭の状況を「家庭内労働としての衣服制作と消費の対象であるファッションはいかにして結びつくのか，そしてファッション誌におけるパターンとはどのようなものだったのか」という切り口で詳細な資料調査にもとづいて論じている。今日の感覚ではファッション誌は視覚による情報提供という側面を思ってしまうが，『ハーパース・バザー』の役割は当時の各家庭における手仕事に関わる情報提供であり，パターンとは制作に関わる情報伝達のメディアであったことに気付かされる。今日ではパリのオートクチュールの情報は高精細動画や写真，流通する現物で容易に得ることが出来るが，当時の視覚情報がモノクロームのイラストが殆どでであった事を思うと，色や素材が現物に近いものを再現する，再現させることが重要であったと感じさせられた。『ハーパース・バザー』はパリのオートクチュールのファッションをパターンを通じて伝えていたことを明らかにしているが，当時の消費者はどのような形でファッション情報を手に入れ，それを実践したのかという問いに答える実証的な論文である。

この論文は，『ヴォーグ』などのメジャーなファッション誌の影に隠れて扱われることの少なかった『ハーパース・バザー』に着目したことで，情報提供誌としてパターンの意義が示されたことは重要である。論文の展開は明快で説得力があり，読者は様々な新知見を教えられる。アメリカのファッション史，デザイン情報の伝え方にかかわる新たな知見をもたらした新鮮な論考であり，意匠学会論文賞として顕彰するに価する。

選考経緯

本論文賞は，『デザイン理論』68号，69号掲載の学術論文8編を対象とし，昨年度までと同じ以下の方法で選考した。論文賞選考は，伊原久裕委員，谷本尚子委員，滝口洋子委員，並木誠士委員，塚田章（取りまとめ）で行った。委員がそれぞれ上位５編の論文を選び，それを１位から５位までに順位づけした。これを１位５点，２位４点，３位３点，４位２点，５位１点と点数化し，集計した。その結果，１位が17点，次点が12点，３位が11点（以下略）となった。この結果を2016年度学会賞選考委員会委員に示し，１位の「パターンによる流行受容 ── 初期『ハーパース・バザー』の重要性」を授賞候補とした。この学会賞選考委員会からの提案は2017年４月の第１回役員会に報告され承認を得た。